URL　http://aomori.lin.gr.jp

畜産協会だより

Vol.33
発　行
一般社団法人 青森県畜産協会

第14回定時総会を開催

本協会の第14回定時総会が去る６月26日に青森市の「ラ・プラス青い森」で開催され、平成28年度の事業報告及び収支計算書類から第２号議案の平成29年度会費及び賛助会費の額並びに徴収方法、第３号議案の平成29年度事業計画及び収支予算の報告について、原案どおり承認されました。

また、第４号議案の役員の改選が行われ次の役員が選任され、定時総会終了後の理事会において、新会長に小山田　久 氏（十和田市長）が選任されました。

なお、渡部　毅 前会長は、本総会をもちまして退任されました。

〈平成29年度の重点項目〉

1　経営支援対策

(1)　畜産経営の安定と生産性向上を図るため、生産技術の支援及びインターネットによる情報の配信などの総合支援
(2)　肉用牛肥育経営安定特別対策（通称：マルキン）の推進
(3)　家畜排せつ物の耕種農家の土づくり促進と連携した利用促進
(4)　公共牧場の有効利用と地域資源を活用した自給飼料の確保推進
(5)　県産畜産物の普及推進

2　価格安定対策

(1)　肉用子牛生産者補給金制度及び関連事業の推進
(2)　肉用牛経営安定対策補完事業の推進（肉用牛ヘルパーの推進等）
(3)　養豚経営安定対策事業の普及推進

3　家畜衛生対策

(1)　家畜伝染病の発生・流行の防止のためワクチン接種の推進及び家畜防疫互助事業への加入推進
(2)　牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策特別措置法に基づく48月齢以上の死亡牛検査の推進及び牛の検査材料保冷施設の運営

渡部前会長退任の挨拶

去る６月26日に開催された第14回定時総会で会長職を退任しました。

会長職の期間は、畜産関係団体が統廃合され、畜産協会として再編された平成15年７月からおよそ14年間でございます。また、合併前の旧畜産会の理事・副会長職13年間を含めれば27年間となります。

この間、無事に務めを果たすことができましたことは、会員及び関係者、役職員の皆様のお陰であります。長い間大変お世話になりました。

思い起こせば、畜産行政上の長年の課題でありました畜産関係団体の統廃合を関係者のご努力により成し得たことが一番の思い出であります。次に統合後における畜産協会の財務基盤の強化、いわゆる長年の赤字経営から黒字経営に転換できたことがあげられます。特に、黒字経営で次期会長の小山田さんにバトンタッチできたことをうれしく思っています。

今後は、一人の畜産人として青森県の畜産を見守って行きたいと考えています。関係する皆様方のご健闘をお祈りいたします。

小山田会長就任のご挨拶

この度、会長に選任された小山田　久でございます。就任に当たって、ご挨拶を申し上げます。

畜産・酪農経営は、高齢化や後継者不足により飼養戸数・頭数が減少しているなど生産基盤の縮小が大きな課題となっています。また、子牛価格の過去に例のない水準までの高騰により、肉用牛肥育経営の収益性悪化が懸念されるとともに、酪農経営の乳用後継牛の確保にも影響が及んでいます。

一方、苦渋の決断をしたＴＰＰ交渉については、米国の離脱表明を受け、先行きが不透明になっております。今後、日米二国間協議により大幅な輸入増や関税引き下げを要求されることが懸念されるなど、国際化に向けた動向は予断を許さない状況となっています。

このような難しい時期に協会の舵取り役を担うことになりましたが、畜産を巡る情勢変化を的確に捉えながら、また、会員及び関係者の意見を聞きながら、青森県の畜産の一層の発展に向けて、畜産経営の収益性の向上、生産基盤の強化などに役職員一同全力で取り組んで参ります。

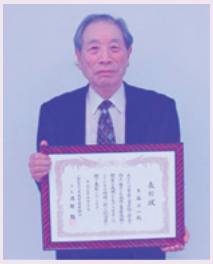
生産者をはじめ、関係機関・団体の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げ、簡単ではございますがご挨拶といたします。

役　員　改　正

会　　長	小山田　　久	十和田市（新任）
副 会 長	井　上　主　税	全国農業協同組合連合会青森県本部
副 会 長	山　崎　憲　久	上十三地区家畜衛生推進協議会
専務理事	菅　　慶一郎	学識経験者
理　　事	小　又　　勉	七戸町
理　　事	戸　田　　衛	六ヶ所村
理　　事	小山田　富　弥	（公社）青森県獣医師会（新任）
理　　事	三　浦　正　名	三八畜産衛生協議会（五戸町）
理　　事	福　島　弘　芳	津軽地区家畜衛生推進協議会（つがる市）
理　　事	山　内　正　孝	青森県畜産農業協同組合連合会
理　　事	布　施　　久	（一社）青森県養豚協会
理　　事	酒　井　一　由	ゆうき青森農業協同組合
理　　事	丸　井　幸　悦	（一社）青森県配合飼料価格安定基金協会
理　　事	田　嶋　政　榮	青森県農業共済組合連合会（新任）
代表監事	白　戸　勝　一	ごしょつがる農業協同組合
監　　事	澤　田　　恵	三戸畜産農業協同組合

平成29年度 家畜衛生表彰者

東青地区



工藤　洋一（くどう　よういち）

同氏は、平成９年３月に青森県畜産試験場を退職後、青森県肉用牛開発公社に平成13年３月まで勤務した。平成13年４月に産業動物獣医師の少ない東青地域において工藤家畜診療所を開設すると同時に、青森県畜産協会の非常勤コンサルタント、東青地区家畜衛生推進協議会事務局長に就任した。これを契機に地域肉用牛農家を定期的に巡回し、生産者に寄り添った指導を継続している。特に発情観察や子牛の育成方法など生産者に分かりやすく、楽しく説明することで、生産者からの信頼も厚い。

また、青森県獣医師会誌に「おもしろーい養牛学」、「楽しい養牛学」など数多く投稿し、生産現場の体験が少ない若手獣医師が貴重な文献として参考にしている。

三八地区

松橋　康彦（まつはし　やすひこ）

昭和57年から青森県軽種馬生産農業協同組合の職員として軽種馬の生産及び飼養管理などの指導業務に従事された。昭和61年からは市場において鑑定人として青森県のみならず、全国各地で活躍されている。

現在は、青森県軽種馬生産農業協同組合参事及び東北軽種馬協会の事務局長としても活躍されており、地域の家畜飼養衛生の向上と軽種馬の発展に大いに寄与している。

上十三地区

山端　　亨（やまはた　とおる）

上北地域は県内屈指の養豚地帯であり、同氏は昭和50年頃から舘沢農場にて、母豚40頭規模で養豚経営を開始し、兄康一郎氏とともに上北地域の養豚産業を常にリードしてきた。現在では、県内県外にも関連農場を有する一大企業養豚に育て上げている。

ＬＷの種豚を生産した頃から徐々に経営規模を拡大し、平成に入ってからは、鹿児島県からバークシャー種を導入し、国内第１号の「黒ブタ生産農場」として特色ある豚肉生産も行い、全農系を主体に関連企業もとおして安全で高品質な食肉生産に努めてきた。

農場経営においては、より安全な食肉の供給のため、今後も求められてくるであろうＧＡＰ認証を見据えて、平成28年度にはHACCPも取得している。

また、職員の労働環境の待遇改善に努め、月７日以上の休暇を推奨するなどしており、職員定着率が非常に高くなっている。

衛生対策にも関心が高く、家畜保健衛生所と連携し、勉強会も実施。口蹄疫、流行性下痢などに対する輸送ルート、配置等をシュミレーションし、伝染性疾病発生時にも機動的に緊急ワクチン接種励行に努め、オーエスキー病や豚流行性下痢の大きな侵入を防いでおり、高く評価されている。

むつ地区

小林　春松（こばやし　はるまつ）

平成８年から父親の肉用牛繁殖経営を本格的に引き継ぎ、黒毛和種繁殖牛２頭から始め、地域の特性を生かし放牧を取り入れた優良子牛の生産に努め、常に安定した経営を維持しています。また、平成15年から東通村大利牧野組合の組合長、さらに、平成27年からは東通村畜産振興協議会の会長の要職を勤め、地域の肉用牛振興と地域のリーダー的存在として大いに貢献しています。

小林さんは、現在、黒毛和種繁殖牛６頭を飼養し、飼養衛生管理基準を遵守するとともに、疾病の発生予防のために予防注射や消毒などの家畜衛生対策にも積極的に取組んでいる。

生産者補てん金　交付状況

1. 肉用子牛生産者補給金交付状況

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳用交雑種
保証基準価格		337,000円	307,000円	220,000円	133,000円	205,000円
合理化目標価格		280,000円	257,000円	149,000円	90,000円	147,000円
平成28年度第４四半期（１月～３月）	平均売買価格	851,400円	777,600円	360,200円	213,800円	419,300円
	交付単価	－	－	－	－	－
	交付額	－	－	－	－	－

2. 肉用牛繁殖経営支援事業支援交付金交付状況

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種
発動基準		450,000円	410,000円	290,000円
保証基準価格		337,000円	307,000円	220,000円
平成28年度第４四半期（１月～３月）	平均売買価格	851,400円	777,600円	360,200円
	交付単価	－	－	－
	交付額	－	－	－

3. 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（牛マルキン事業）補填金交付状況

対象区分	肉専用種	交雑種	乳用種	備考
平成28年11月期（１月交付）	－	6,200円	51,500円	
平成28年12月期（２月交付）	－	－	61,100円	
平成29年１月期（３月交付）	－	－	72,100円	
平成29年２月期（４月交付）	－	30,700円	75,200円	
平成29年３月期（５月交付）	－	39,000円	70,700円	

4. 牛マルキン補填金算定基礎（全国）【平成29年３月期】

区分	肉専用種	交雑種	乳用種
粗収益　(A)	1,218,652円	705,404円	431,082円
生産コスト　(B)	1,081,119円	754,234円	519,522円
差額　(C)＝(A-B)	137,533円	△　48,830円	△　88,440円
補填金単価（D）＝（C）×0.8	－	39,000円	70,700円
補填金単価（概算払）（D）-4,000	－	－	－

注１：補填金単価は、100円未満切り捨て。　注２：平成26年度より消費税抜きで算定。

5. 養豚経営安定対策事業 補てん金交付状況

	平均粗収益	平均生産コスト	補てん金単価
平成28年度　第１～４四半期（４月～３月）	37,149円／頭	32,565円／頭	0円／頭

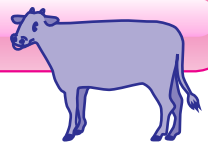
地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡下さい。地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト/馬主申請Q&Aでご覧になれます。

http://www.keiba.go.jp/

青森県家畜市場成績（七戸）



子牛　市場成績表

【開催日　29年6月9日】

1．販売価格　　税込み【子牛】

品種	性	今回分 頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均日令	平均体重	Kg単価	前回分 頭数	平均価格	Kg単価	Kg単価増減
黒毛和種	雄											
	去	315	1,352,160	874,810	831,939	303	330	2,523	334	917,171	2,770	-247
	雌	214	1,327,320	77,760	698,276	309	300	2,327	218	966,963	2,572	-245
【小計】		529	1,352,160	77,760	777,867	305	318	2,448	552	856,035	2,696	-248
	主	17	1,358,640	367,200	753,713	299	317	2,379	10	879,768	2,827	-448
日本短角種	雄											
	去	1	182,520	182,520	182,520	324	280	652				
	雌											
【小計】		1	182,520	182,520	182,520	324	280	652				
	主											

・黒毛和種の取引頭数は420頭で、前回より去勢31頭増、雌１頭増、全体で32頭増となった。
・黒毛和種の平均価格は872千円で、前回より去勢24千円高、雌２千円高、全体で19千円高となった。

2．主な種雄牛の販売価格　　税込み【子牛】

名号	去勢 頭数	平均価格	体重	単価	日令	雌 頭数	平均価格	体重	単価	日令	合計 頭数	平均価格	単価	日令	割合(%)
第１花国	66	866,913	337	2,572	304	42	712,363	302	2,357	316	108	806,810	2,494	309	20.5
美津照重	28	816,441	330	2,477	302	31	740,915	299	2,476	306	59	776,758	2,477	304	11.2
安茂勝	30	819,144	326	2,511	299	24	690,750	309	2,235	308	54	762,080	2,392	303	10.2
百合茂	8	1,042,200	349	2,991	298	2	774,900	315	2,460	299	10	988,740	2,893	298	1.9
優福栄	13	762,148	314	2,425	308	5	705,240	290	2,435	299	18	746,340	2,428	306	3.4
美津百合	13	798,535	326	2,449	307	6	572,580	252	2,272	329	19	727,181	2,403	314	3.6
											※その他省略				
総合計	314	832,364	330	2,524	300	214	698,276	300	2,327	309	528	778,017	2,449	305	100.0

・最も取引頭数の多かった種雄牛は「第一花国」で20.5%、次いで「美津照重」11.2%となった。
・第一花国の平均価格は807千円で、前回に比べ83千円安となった。単価は2,494円で前回より276円安となった。

「あおもり大畜産まつり」開催

平成29年６月30日（金）～７月２日（日）の３日間、青森県観光物産館アスパムにおいて、「あおもり大畜産まつり」が開催された。

「あおもりたまごかけごはんまつり」と同時に開催しているこの「あおもり大畜産まつり」も今年で４回目の開催となり、今年はオープニングセレモニーとして県畜産課長と関係団体役員によるテープカットも行われた。

当協会で事務局を持つ青森県養蜂協会では、３日間とも出展し、県養蜂協会会長である鳥谷部養蜂場のはちみつやローヤルゼリー等蜂産品の試食販売を行った。

その他、巣箱の中に１匹だけ入っている女王蜂を探して見つけてもらう「透明巣箱の展示」と、手回しの透明容器の遠心分離器を用いて実際に巣からはちみつを取り出す「採蜜体験」を各日２～３回実施した。

遠心分離機で取り出したはちみつは、試食品として体験した方に無料で提供し、子供から大人まで沢山の人集りができるほど大盛況だった。

来場者も昨年より増加し、県産はちみつのＰＲの場として非常に良いものとなった。

平成２９年度　職員紹介

専務理事　菅　慶一郎

事務局長（兼）　菅　慶一郎

総　務　部

部長　鹿内　晴美

総　務　課

課長代理（嘱託）　森山　芳伸
主任（兼）　葛西　哲人
主任　千葉　健一
臨職　工藤　美紀

経営支援部

部長　菅　慶一郎

経営支援課

課長　小笠原和弘
主幹（嘱託）　山田　育夫
主幹（嘱託）　中嶋　峯雄
主任　村田　春菜
技師　太田亜夢子

価格安定・衛生課

課長（兼）　鹿内　晴美
主任　葛西　哲人
主任　葛西　裕子
臨職　新山　藍
臨職　石田　綾奈

牛の検査材料保冷施設

臨職　堀内慎一郎

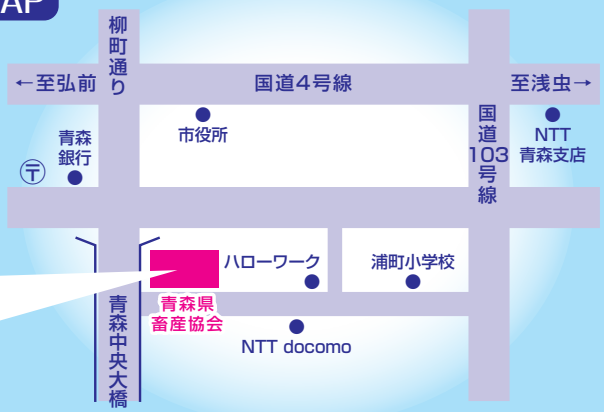
よろしくお願いいたします

第11回全国和牛能力共進会 宮城大会

■開催期間：平成29年９月７日（木）～11日（月）■会　場：夢メッセみやぎ、仙台食肉市場

ビルの上にいる牛が目印です。

MAP



一般社団法人　青森県畜産協会
〒030-0822 青森県青森市中央二丁目１番15号（畜連ビル）
総　務　課　TEL（017）723-2523（代）
経営支援課　TEL（017）723-2775
価格安定・衛生課　TEL（017）722-4331（衛生）
TEL（017）718-3809（価格）
FAX（017）731-1196
URL　http://aomori.lin.gr.jp　E-mail　info@aomori.lin.gr.jp